

平成23年3月31日

平成22年度

事業報告書

テーマ：「品格」

社会福祉法人 真盛学園

目 次

〔法人平成22年度事業報告〕

平成22年度を振り返って
法人概要

〔まもり苑平成21年度事業報告〕

- 1 日課
- 2 生活介護
- 3 施設入所支援
- 4 利用者自治会
- 5 行事
- 6 研修
- 7 医療
- 8 給食
- 9 防災訓練
- 10 設備整備事業・環境整備
- 11 苦情解決
- 12 ひやり・はっと報告
- 13 事故報告
- 14 個別支援計画
- 15 在宅支援〔日中一時支援・短期入所支援（利用実績表）〕
- 16 社会・地域貢献
- 17 くらぶ活動
- 18 グループホームまもり

添付資料

- ・平成22年度研修実績表
- ・平成22年度行事实績表
- ・平成22年度作業収益金 収支報告
- ・平成22年度作業収益金 決算書

[児童養護施設真盛学園平成 2 2 年度事業報告]

- 1 入所児童月別実績表
- 2 子育て支援ショートステイ事業
- 3 実習生の受け入れ状況
- 4 会議研修会等出席状況
- 5 行事報告
- 6 行事における決算書

平成22年度事業報告

平成22年度を振り返って

今年度は法人内において非常に変化の大きい1年であった。そのような中で今年度の法人テーマである「品格」をどのように実践できたかである。日々の中での利用者への対応、職員個々が仕事上だけでなく仕事を離れた場面での身なりや振る舞いへの意識、工事関係業者や調理委託業者との対応、利用者家族や外部関係者との対応など「品格」を意識すべき場面は多々あった。今年度、意識したことを来年度以降も実践につなげていけるよう、ひとりひとりが多くの経験を積んでいける機会をもうけていきたい。

まもり苑は、施設の耐震・老朽化等整備工事が22年6月よりスタートし、23年3月に本体改修工事が終了する。増築部分への移動と、本体完成後の移動をあわせて1年に2回の引越しを行い、利用者にとって工事期間内の食事、入浴、部屋割り等についてはこれまでの長年の生活環境から大きく変わるものであったが、無事に、来年度4月から新しい建物での新生活をスタートできる準備が整った。

また、食事については今年度4月より給食業務を業者（魚国総本社株）へ委託したことで新たな食事のかたちをとることとなった。施設入所支援事業においては、今年度は定員1名減のままで運営を行ってきた。新規契約者の1名補充については、必要とされるニーズとタイミングを慎重に図ったうえで、来年度の補充となる。4月より新任職員1名を含めた新戦力4名を支援部に迎え、利用者へのより手厚い支援、業務の効率化につとめた。また、11月より夜勤者2名体制を敷くなど勤務体制に変化を入れるなどして、利用者の環境変化に対応できるよう職員配置にも考慮しながら事業展開を行ってきた。

真盛学園は、これまで1つの浴室を時間シェアで対応してきたが、旧ボイラー室を脱衣場に改装し、園舎西側の10㎡弱のスペースに新規浴室を増設した。浴室が男女区別されたことにより、時間的に余裕が生まれ、職員、子ども共々ゆとりある生活につながった。人事については、翌年度4月より職員1名の法人内異動に伴って、新規保育士1名の内定をした。近年、中途退職者もなく、配置可能な職員定数での運営ができています。今年度4月より、本園定員を30名にし、分園型自活訓練事業を6名定員の地域小規模児童養護施設とした。トータル4名の定員を減じた最初の年度であったが、県内においては暫定定員を設定する施設が4つもありながら、当園は定員充足率100%で運営することができた。定員改定が功を奏したものとする。

来年度は両施設とも、設備が新しくなったことで、新しい生活環境に慣れること、そして、新しい生活スタイルを定着させることから始まる。利用者が安心して安全に暮らせる生活環境を整えるために、地に足をつけた支援を心掛けていく。

2. 法人資源地域開放事業

法人資源地域開放事業マイクロバス等無償貸出事業の平成22年度は20回の貸出実績があり平成23年度も継続して行う予定である。

(1)平成22年度実績表

貸出先	回数	摘要
東観中学校	20回	学校活動貸出

3. 各施設整備工事

まもり苑耐震化等整備工事（平成22年6月～平成23年3月）

真盛学園風呂改修工事（平成22年10月～平成22年12月）

平成22年度法人事業概要

1. 法人の概要

法人名：社会福祉法人 真盛学園
 住所：三重県津市安濃町今徳247番地 059-268-2121
 理事長：本弘路可

2. 法人実施事業

(1) 第一種社会福祉事業
 (イ) 児童養護施設真盛学園の経営 定員：36名
 (ロ) 障害者支援施設まもり苑の経営
 生活介護事業 定員：33名
 施設入所支援事業 定員：30名

(2) 第二社会福祉事業

(イ) 障害福祉サービス事業の経営
 知的障害者短期入所事業（まもり苑）定員：2名
 地域活動支援事業 日中一時支援事業
 共同生活介護事業（グループホームまもり）定員：7名

3. 役員等の状況

役職名	氏名	任期满了年月日	備考
理事・評議員	本弘 路可	平成23年 5月18日	理事長
理事・評議員	本弘 東午	平成23年 5月18日	真盛学園施設長（理事長職務代理者）
理事・評議員	服部 高明	平成23年 5月18日	悟真寺住職
理事・評議員	福島 弘隆	平成23年 5月18日	(株)トリックス
理事・評議員	川本 泰央	平成23年 5月18日	元今徳区区長
理事・評議員	田中 秀幸	平成23年 5月18日	南光寺住職
評議員	近藤 忠彦	平成23年 5月18日	三重県知的障害者福祉協会会長
評議員	世古口 緑	平成23年 5月18日	特老美里ヒルズ施設長
評議員	五明 春英	平成23年 5月18日	ティーエス東海
評議員	前北 賢治	平成23年 5月18日	内部障害者本人
評議員	本弘 禮子	平成23年 5月18日	元福祉施設職員
評議員	横田 功充	平成23年 5月18日	まもり苑副施設長
評議員	田中 茂範	平成23年 5月18日	真盛学園副施設長
監事	大河内 茂	平成23年 5月18日	元鈴鹿市社協職員
監事	南部 郁夫	平成23年 5月18日	明和町長社協事務局長

4. 第三者委員

障害者支援施設まもり苑

1. 苦情解決責任者 施設長 本弘路可
2. 苦情受付担当者 主任 田中玲子
3. 第三者委員 大河内 茂・南部郁夫

児童養護施設真盛学園

1. 苦情解決責任者 施設長 本弘東午
2. 苦情受付担当者 主任指導員 末広健二・主任保育士 津島史枝
3. 第三者委員 大河内 茂・南部郁夫

内部経理担当者 横田 功充（まもり苑副施設長）

1 . 日 課

日課内容...変更なし

日課表及び職員勤務体制

遅番2人体制（6月～10月）

夜勤2人体制（11月より）

業務内容...変更なし

2 . 生活介護

個々の一日の流れを日課にのせて、日々に充実感を持てるように生活介護としての支援をおこなってきた。年度途中より増改築工事のため、生活の場や活動の場、入浴、食事など、長年慣れ親しんできた生活形態が変わることとなった。そのような中で、新しい生活環境でのストレスを少しでも緩和することが大きな課題であった。

どんな些細な軽作業でも、目標をもっておこなうことで単なる時間つぶし・暇つぶしではないことを意識した。頑張った先には喜びや楽しみがあることを利用者が意識することで、作業に取り組む姿勢も違ってみえた。散歩やドライブへ積極的にでかけたり、ラジオ体操、自転車こぎ、WII FITなどの軽運動でストレス解消、体力維持に努めた。年度途中より、2つのユニットに分けて日中活動の場も別々にすることを試みた。入浴や活動のひとつの場としてグループホームを利用したが、いつもと違う場所へ移動することが「出掛ける」感覚で利用者にとっては非常に新鮮であった。ベルマーク活動も出来る範囲で継続してきた。創作活動も、自由画を描いたり、行事の際の飾り付けを作るなどで活動に幅を持たせてきた。増改築工事の影響は外部にも及び、生産活動については協力会社のGMTコーポレーションの仕事を縮小し、外部ボランティアによる「喫茶」も年度途中より一時中断した。また、通所で生活介護を利用されていた利用者の受け入れを年度途中より一時中断させていただくこととなった。

来年度には新しい建物が完成し、利用者が、また新しい環境に慣れることから始まっていく。この先何十年という生活スタイルを築いていく初年度でもある。利用者が安心して安全に毎日を過ごしていけるよう、個々の生活レベルに合わせた支援を心掛けていく。

3．施設入所支援

今年度は新規契約者なしで、在籍数29名のままであった。利用者の夜間の生活が安全で安心できるものであるために、勤務体制の変更を含めているような支援をおこなってきた。増改築工事のため、年度途中に長年慣れ親しんできた「寝る場所」が替わるという大きな環境の変化があった。初めの頃にはそれぞれの利用者に戸惑いもみられたが、皆が無事に仮住まいの期間を経て、新居へ引っ越しする準備を整えることができた。夜間の支援体制を手厚くするために早番勤務を導入したり、遅番勤務を2名つけたり、夜勤者を2名体制にするなど、その時の状況に応じた勤務体制を臨機応変に組み入れてきた。夜間の職員数を増員（夜勤2名体制）することで日中の職員数は減った。しかし、一日をトータルして日中と夜間の職員配置のバランスがとれたことで、利用者の毎日の安心と安全につながっている部分は大きいと感じる。

4．利用者自治会

日々の中で、利用者個々が想いや要望を支援者に訴えることができる環境は大事である。それとあわせて、月1回の「利用者自治会」の場で、自分の意見を他利用者に聞いてもらうということも大事にしてきた。自分の想いや要望に対して、他利用者から反論を受けたり時には口論となることもあるが、それも貴重な体験である。利用者全員に参加資格があり、参加メンバーは固定していない。言葉でコミュニケーションがとれない利用者も参加して、ゼスチャー等で自分の想いを訴えている。自治会で行事などの月の予定を確認することで、自分なりに楽しみを抱くことができている。また、大事なことをしっかり伝えれば、利用者にも理解してもらえている、伝わっていることを感じる。

5 . 行事

今年度も季節を感じる外出、招待行事や三知協行事への参加、個別外出など、利用者のいろんな要望にそった行事を実施してきた。それとあわせて、苑内で出来るちょっとしたことも行事に組入れて多くの楽しみを提供できた。利用者の高齢化や体力低下を考慮し、外へ出掛けるだけが楽しみではなく、楽しみはちょっとした発想でみつけれられることを実践できた一年である。

* 年間実績については別表参照

6 . 研修

各職員の資質向上や組織力の向上を目的として、今年度も新任、中堅、栄養、衛生、事務関連など各種研修に参加する機会を設けてきた。各研修の内容については、職員全体会議の中で復命をおこなった。また、苑内においては苑内研修として特別の場を設けることはなかったが、上司が部下に対して、知識や技術、職場における役割、取り組み姿勢、態度、マナー等の向上を日々の日常の中で指導・援助することに努めた。

7 . 医療

今年度は、肺炎2名（うち1名入院）、心不全2名（うち1名入院）の発症者がみられた。嘱託医との連携により早期対応で大事には至らず、無事にもとの生活に戻ることができている。また、膝関節の損傷により歩行に松葉杖の使用が必要となった利用者が1名みられた。増改築工事のため、年度途中で生活環境に大きな変化があり、環境の変化に上手く対応しきれずに体調を崩したりストレスをためてしまう利用者もみられた。今後の支援の中で、環境の変化が利用者にも与える影響も十分に考慮していかねばならないと改めて感じた。利用者の高齢化に伴い、医療の占める割合は年々大きくなってきている。体調不良や気持ちの不安定さを自ら訴えることができない利用者がほとんどであり、日々の様子観察による早期発見、早期対応がこれからも求められている。嘱託医、医療機関との連携がスムーズにいくように、何かがあったときだけでなく、日頃からの定期往診や定期受診での情報のやりとりをしっかりとっていく必要がある。

8 . 給食

今年度4月より給食は委託業者 魚国（株）により提供されることとなった。食事サービスの質がこれまでよりも低下しないように、また、利用者にとって最善の食を提供するために全てを業者に任せきりにするのではなく、気づいた点や利用者からの要望などを積極的に打ち出し、業者との話し合いを何度も重ねてきた。行事食や利用者の目の前で調理する実演調理など、いつもと違う目先を変えた食事提供は利用者にとって大変好評であった。食事は利用者の「気持ちの安定」と「健康」に直接つながる大きな要因である。栄養士、看護師、支援部の連携は欠かせないものであり、さらに業者との連携をより良く保つことで、利用者が気持ちよく食事できる環境を整えていきたい。

9 . 防災訓練

< 22 年度実績 >

避難訓練	4 月、5 月、12 月実施
救急法訓練	7 月実施（消防署立合）
通報・消火訓練	12 月実施（消防署立合）

増改築工事の影響により、避難訓練については前年程の回数を実施することはできなかったが、その他の訓練（救急法訓練、通報・避難・消火訓練）については消防署員立ち会いのもとで計画通り実施することができた。また、一時的に増築部で生活を送っていた期間においても火災を想定した避難訓練を実施した。来年度は新しい建物での生活となり、防災に関する設備や避難経路がこれまでと変更となる。新しい動きに慣れることから始まるが、スムーズに避難の動きがとれるように、年間を通して訓練を繰り返していくなかで身につけていきたい。また、日々のなかで火元管理や震災についても常に意識した防災活動をおこなっていきたい。

10 . 設備整備事業・環境整備

今年度に開始した設備整備については建物の増築・改修、耐震化、スプリンクラーの設置が 23 年 3 月に終了する。

増改築工事のため年度途中で 2 度の引越を行うなど、生活環境に変化のある 1 年であった。それに伴い、利用者の生活に支障がないように居室環境、食事環境など、直接日々の生活に関わる部分を中心として様々な場面での環境を整えてきた。建物が新しくなって設備面において今まで以上に充実したものとなり、建物内においてはバリアフリーで段差がなく、足元が不安定な利用者にとっては安心できる環境となった。新しい環境に慣れるまではどの利用者も不安を抱え、ストレスを感じながらの生活である。慣れていく度合いは利用者によって個人差がみられるため、各利用者の環境への適応具合をしっかりと見極める必要がある。また、設備面での不具合の対応を迅速に、季節や日々に応じた環境整備を計画的に行っていく。

1 1 . 苦情解決

平成 22 年度 苦情処理件数 0 件

今年度の実績として、第三者委員へ提出するような事案は 0 件であった。ただ、利用者からの愚痴や不満、要望も含めて苦情としてとらえており、日々のかかわりの中からいろんな拾い出しをしてきた。利用者からでてきた訴えの処理方法については、話を聞いてもらうことだけで解消されるものや、ちょっとした助言をもらうだけで気持ちの整理をつけることができたり、全体的な取り組みとして対処し解決に向けたものもあった。出てくる訴えの程度を見極めて対処することが求められるが、訴える側の利用者にとっては全てが重大な問題であるとの認識で取り組む必要がある。

1 2 . ひやり・はっと報告

平成 22 年度 ひやり・はっと報告件数 8 件

ひやり・はっとは結果として事故に至らなかったものであるが、重大な災害や事故を予防する意味でも決して見過ごされてはならないものである。ひとつひとつの事案を職員間で共有し、同じ事が 2 度起きないように対応策、改善策をとることに努めてきた。利用者の機能低下、こだわり行為、利用者間トラブルから危険が発生することが多く、日々から利用者の気持ちや行動を安定させるような支援を心掛けていかねばならない。増築部への引っ越し後、一定期間内に発熱や風邪症状などで体調を崩した利用者が多数みられた。寒さ対策や居室の温度・湿度管理、ホコリ対策などの対応をとって終息することはできたが、集団的に体調不良者が発生したことも、ひとつのひやり・はっと報告としてあげておきたい。

1 3 . 事故報告

平成 22 年度 事故報告件数 3 件

建物の増改築工事に伴い、年度途中より新しい環境での生活が始まった。新しい建物は安全面に配慮されているとはいえ、環境になれるまで不慣れな中で生活をする利用者にとってはどこに危険が発生する要因があるか分からない。利用者の行動面や環境面について、危険があらかじめ予測されることについての対応は迅速におこない、事故への発展を未然に防いでいく必要がある。

14. 個別支援計画

個別支援計画を基に日々の利用者支援をおこない、計画実施状況の検討を随時おこなうことで必要な部分には計画書の追加、変更をかけてきた。その中で、利用者自身の状況や、家庭状況が大きく変化したことで計画が一部変更となったケースが数件みられた。計画書の内容については家族、本人の同意を得ることを前提としている。利用者の高齢化に伴い、利用者の状況変化が今後も予測されるため、本人状況やニーズの変化と計画書の整合性がとれるように、個別支援計画の内容をしっかりと意識した支援が求められる。

15. 在宅支援（日中一時支援・短期入所支援）

日中一時支援・短期入所（宿泊）支援利用状況（H.22 利用実績表）

【 22年度 日中一時支援利用実績 】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
実績(時間)	81	72	68	92	84	52	449
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
実績(時間)	0	0	0	0	0	0	

【 22年度 短期入所（宿泊）支援利用実績 】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
実績(日)	8	8	6	6	12	2	45
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
実績(日)	0	0	0	0	3	0	

今年度は施設の増改築工事に伴い、10月以降の利用受け入れを一時中断することとなった。来年度には受け入れを再開する予定であるが、これまでの施設環境とは一変しているために利用者自身の戸惑いが予測される。新しい環境に少しでも早く慣れるような支援が必要である。継続利用者の支援目標を明確化することで、利用者支援の充実化を図っていきたい。利用については苑入所者の生活に影響が無いよう、許容範囲内での受け入れを調整しながらおこなっていく。また、新規の利用希望者への対応についても、そのケースごとに、苑として果たす役割は何かをしっかりと意識した対応が求められる。

16. 社会参加・地域貢献

< 22年度ベルマーク活動実績 8752点 >

ベルマーク活動は日中活動のメニューのひとつとして定着しており、少しずつではあるが、できる範囲での活動をおこなってきた。来年度は活動開始から4年目を迎える。これまでは点数を貯める活動目標であったが、来年度は新たに具体的な目標設定をし、運動協力者に対しても何か新しい報告ができることを目指して運動を継続していきたい。

17. くらぶ活動

〔クッキング〕

今年度は地域の料理教室に年5回参加する。一部支援により調理が可能な利用者3名を固定メンバーとした。料理をすることも楽しみだが、地域の方達との交流も大きな楽しみであったようだ。今年度は増改築工事の影響もあり、施設内でのクッキングクラブとしての調理活動はできなかったが、手作りおやつをつくったり、かき氷機を購入してかき氷を皆で食べるなど、おやつを食べる楽しみも実践してきた。まもり苑からの代表メンバーが外へ出掛けて、地域の方達と交流を深めながら料理を楽しむ機会は来年度も大事にしていきたい。また、新しい環境のもと、苑内において皆が楽しめるようなクッキングくらぶの活動についても実践していきたい。

〔華道〕

ボランティア講師の協力のもと、増改築工事の影響で活動場所を変更しながらではあったが、年間を通して毎月1回の活動を確保してきた。参加メンバーは固定しておらず、利用者の参加希望に基づいて、その都度メンバー調整をおこなってきた。アドバイスを受けながら、自分なりに活かした作品を苑内に展示できる喜びと、ボランティアの講師との交流を非常に楽しみにしている。利用者の楽しみのひとつとして、来年度も継続していきたい。

18 . グループホームまもり

平成22年度をふり返って

現在の2名の利用者も、来年度の7月で共同生活介護事業(ケアホーム)を利用して丸2年となり、日中は働きながらの生活リズムも確立されてきた。しかし、今後も施設としてのバックアップが不可欠な部分があることも事実である。ホームとしての独自性を尊重し、生活の基盤である職場との連携を密にし、本人達が将来にむけたステップアップを目指せるような後押しをしていくことが必要である。

新たな新規契約者について、いくつかのケースが挙がり検討をしてきたが、いづれも契約までには至っていない。入居希望に関しても様々なニーズが存在しており、そのひとつひとつに真剣に向き合ってきた。その時その時に出せる最善の答えは何なのかを、十分に検討していく必要性を強く感じる。

【日常生活支援】

職場においては特に大きな問題もなく、仕事もがんばっているとの評価をいただいている。職場での様子や、ホームでの様子を苑と職場がお互いにより深く知ることができるように職場訪問を年数回行い、情報交換することにつとめた。日常の生活についても、利用者を変えてのケアホームミーティングを年数回行うことで利用者の想いをつかむことにつとめた。要望に添ったかたちで外出を行ったり、苦情に対する改善策を立てたりするなどした。また、利用者同士がお互いを気遣ったり、利用者自身が自分たちの生活の場を大事にしている姿もたくさん見ることができた。金銭管理や職場との連携などでまだまだ苑としてのバックアップが必要な部分は多いが、利用者が自主性を持って生活していけるように、また、利用者が自分たちの想いを訴えやすいような環境をつくっていくことを大事にしていきたい。

【防災】

苑の避難訓練に参加するかたちで、防災訓練を行った。利用者本人達が実際にイメージして想定することも必要で、火災や災害の時に自分たちの身を守るにはどうすればよいのか、常日頃から自分たちが気をつけることは何なのかなど防災に関する意識を高めていけるように、日々の関わりやケアホームミーティングの中から必要なことを伝えていくよう支援をしていく。

平成22年度 研修実績

実施日	研修名(場所)
4月22日(木)	三重県福祉栄養士研修会 場所：三重県社会福祉会館
6月3日(木)	県社協新任研修
6月4日(金)	場所：三重県社会福祉協議会
6月18日(金)	経営協衛生管理研修会 場所：三重県社会福祉会館
7月3日(土)	フォローアップ研修 場所：三重県社会福祉会館
7月20日(火)	新任職員研修 新任職員研修スタッフ 場所：高田青少年会館
7月22日(木)	東海地区職員研修
7月23日(金)	場所：静岡県
8月9日(月)	新任職員研修
8月10日(火)	場所：三重県社会福祉会館
8月20日(金)	社会福祉士スクーリング
8月22日(日)	場所：東京都
8月28日(土)	栄養士専門研修会
8月29日(日)	場所：大阪府
9月29日(水)	全国職員大会
10月1日(金)	場所：和歌山県
12月3日(金)	施設長会議&事務・職員研研修
12月4日(土)	場所：伊勢志摩ロイヤルホテル
2月8日(火)	中堅職員研修会 中堅職員研修スタッフ
2月15日(火)	障害福祉サービス事業者集団指導 場所：三重県総合文化センター

平成22年度 行事实施

実施日	行事名(場所)
4月30日(金)	おたのしみ企画 場所：グリーン広場
5月31日(月)	個別外出 場所：サンバレー
6月9日(水)	個別外出 場所：久居インターガーデン内 スターボックス
6月19日(土)	ふれあいスポレク祭 場所：四日市ドーム
8月12日(木)	夏を楽しもう 冷たい「すいか」を食べよう
8月14日(土)	夏を楽しもう 「浴衣」で過ごそう
8月15日(日)	安濃町盆踊り大会 場所：安濃中央公園
8月16日(月)	夏を楽しもう 「そうめん」を食べよう
8月18日(水)	おやつバイキング 場所：食堂
8月20日(金)	上棟式 内祝い 場所：食堂
8月24日(火)	夏を楽しもう 「きゅうりスティック」を食べよう
8月24日(火)	映画鑑賞招待 場所：ワナマイカ鈴鹿
8月27日(金)	映画鑑賞招待 場所：ワナマイカ津
8月27日(金)	夏を楽しもう きれいな「花火」を楽しもう
8月31日(火)	夏を楽しもう 「そうめん」を食べよう
10月14日(木)	運動会 場所：グリーン広場
11月6日(土)	三重県障害者スポーツ大会 (フライングディスク) 場所：身障センターグラウンド
11月12日(金)	ホットケーキを食べよう
11月17日(水)	場所：食堂、グループホーム

平成22年度作業収益金収支報告

単位：円

〔収入の部〕

平成21年度繰越金	40,850
作業収入	55,152

(内訳)	金額	社名
4月	2,000	(株)コトブキ
	2,670	(有)GMTコーポレーション
5月	2,000	(株)コトブキ
	1,656	(有)GMTコーポレーション
6月	2,000	(株)コトブキ
	1,830	(有)GMTコーポレーション
7月	2,000	(株)コトブキ
	1,656	(有)GMTコーポレーション
8月	2,000	(株)コトブキ
9月	2,000	(株)コトブキ
	1,170	(有)GMTコーポレーション
10月	2,000	(株)コトブキ
11月	2,000	(株)コトブキ
	3,000	(株)コトブキ
12月	11,000	(株)コトブキ
	2,000	(株)コトブキ
1月	1,170	(有)GMTコーポレーション
2月	2,000	(株)コトブキ
3月	11,000	(株)コトブキ

雑収入(預金利息) 12

共同募金会より 19,720

$$40,850 + 55,152 + 12 + 19,720 = 115,734$$

〔支出の部〕

給与還元 0

[収支] 115,734 - 0 = 115,734 (次年度繰越)

決	苑長	副苑長	主・副任	担当者
裁				

平成23年3月31日

平成22年度生産活動収益金決算書

担当 林 孝和

収入の部

項 目	金 額(円)	摘 要
前年度繰越金	40,850	
作 業 収 益	45,000	(株)コトブキ
	10,152	GMTコーポレーション
共 同 募 金	19,720	
雑 入	12	預金利息
合 計	115,734	

支出の部

項 目	金 額(円)	摘 要
給 与 還 元	0	
次年度繰越金	115,734	
合 計	115,734	

平成22年度児童養護施設真盛学園概要報告

1. 入所児童月別実績表 施設定員 本園：30名 地域小規模：6名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
本園初日在籍者数	31	31	31	30	31	30	30	29	29	30	29	30
地域小規模 "	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
入所				1				1	1		1	
退所							1					3
うち停止中			1		1		1	1			1	
一時保護委託												
本園定員充足率	103%	103%	103%	100%	103%	100%	100%	97%	97%	100%	97%	100%
平均定員充足率	100%											

2. 子育て支援ショートステイ事業

契約先	人数	年齢	性別	利用期間	備考
桑名市	無				
鈴鹿市	無				
津市	無				

3. 実習生の受け入れ状況

養成学校	人数	実習期間	日数	備考
三重中京大学	3	5月17日 ~ 5月25日	9	
三重中京大学	2	5月26日 ~ 6月03日	9	
高田短期大学	3	6月07日 ~ 6月15日	9	
高田短期大学	3	6月16日 ~ 6月24日	9	
高田短期大学	3	6月25日 ~ 7月03日	9	
皇學館大学	1	8月01日 ~ 8月10日	10	
皇學館大学	1	8月11日 ~ 8月20日	10	
日本福祉大学	1	8月11日 ~ 9月6日	27	実日数24日
鈴鹿医療科学大学	1	8月11日 ~ 9月06日	27	実日数23日
名古屋柳城短期大学	2	9月07日 ~ 9月12日	6	
名古屋柳城短期大学	2	9月13日 ~ 9月18日	6	
津田体育専門学校	1	10月01日 ~ 10月10日	10	
皇學館大学	2	12月22日 ~ 12月31日	10	
鈴鹿短期大学	2	1月28日 ~ 2月05日	9	
鈴鹿短期大学	3	2月6日 ~ 2月14日	9	
鈴鹿短期大学	3	2月15日 ~ 2月23日	9	
名古屋短期大学	2	2月28日 ~ 3月5日	6	
合計	35人		184日	

4．会議研修会等出席状況

研 修	参加人数	開 催 場 所
明治安田心の健康財団「子どもの被害・加害の連鎖を断ち切る為に」	1	東京
中部養護施設協議会総会・施設長学習会	1	名古屋市
三重県児童福祉施設協議会総会・永年勤続表彰	2	津市
「職員のメンタルヘルス」研修	1	身障センター
中部ブロック養護施設協議会「福井大会」	2	福井・芦原温泉
三重県社会福祉協議会生涯研修「新任職員研修」	2	社会福祉研修センター
三重県社会福祉協議会生涯研修「新任職員研修」	1	〃
三重県社会福祉協議会生涯研修「中堅職員研修」	2	〃
三重県社会福祉協議会生涯研修「中堅職員研修」	1	〃
三重県経営協总会・セミナー	1	社会福祉会館
三重県経営協「施設で注意死体感染症・職中毒の基礎知識」	1	社会福祉研修センター
養護施設で起こる児童間の性的虐待への対応	1	津庁舎
給食施設管理者研修	1	総合文化センター
社会保険事務講習会	1	〃
三重県養護施設協会「高校生交流会」	2	鈴鹿市青少年センター
三重県社会福祉協議会専門講座「気になる子どもへの対応」	1	社会福祉研修センター
三重県児童養護施設協議会「職員研修会」	1	社会福祉研修センター
全国里親大会「奈良大会」	2	奈良県
全国児童養護施設長研究協議会「岡山大会」	2	岡山県
三重県社会福祉協議会生涯研修「指導職員研修」	1	社会福祉研修センター
給食施設従事者研修	1	津市リージョンプラザ
三重県経営協「会計研修」	1	社会福祉研修センター
全国社会福祉協議会「ファミリーソーシャルワーク研修」	1	東京
全国社会福祉協議会中堅職員研修「子どもと向き合うスキルアップ」	1	東京
三重県児童（者）施設協会管理職研修会	2	津市聖マツヤ子どもの家

5．平成22年度施設及び設備整備計画の終了状況

工事（納期）年月日	件 名	備 考
平成22年10月	風呂増設工事	

5. 行事報告

実施日	行事	場所	参加人数		備考
			子ども	職員	
4 / 3	野球等観戦（夢シート）	名古屋ドーム	5	2	希望者
5 / 5	バーベキュー	真盛学園 園庭	25	18	連休に帰省できない児童
6 / 5	交流戦招待	名古屋ドーム	5	2	希望者
7 / 29 ~ 30	小キャンプ	滋賀県 深山キャンプ場	14	5	小学生
7 / 31	花火大会	津ヨットハーバー	17	3	
8 / 3	海水浴	福井県 色が浜海水浴場	19	4	中高生
8 / 8 ~ 9	学園旅行	ともやま公園キャンプ村、鳥羽キャンプセンター	9	3	自宅に帰省出来ない児童
8 / 15	お盆行事	安濃町グランド、津市内ショッピングセンター他	24	6	
9 / 4	テーマパーク（中高生）	長島ジャンボ海水プール	19	4	
9 / 27	子供会行事	鈴鹿サーキット	9	4	小学4 ~ 6年
11 / 28	テーマパーク（小学生）	鈴鹿サーキット	13	4	
1 / 4 ~ 6	スキー	北志賀よませスキー場	16	7	中高生
3 / 5	雪遊び	奥伊吹スキー場	16	5	小学生
3 / 13	サッカー大会	東観中学校	17	4	
随時	映画	ワーナーマイカルシネマズ津、109シネマズ明和	35	9	

* その他各部屋にて、食事会及びショッピングを隔月で、各部屋で誕生会を実施。

* 行事報告総評

映画、食事会、小学生スキーが三月に集中してしまい無理があった。夏休み行事も7月に他の行事も入ってくるのでなるべく8月に回した方がよい。各行事の際に子供たちに説明・意見集約を行うために集いを開催するようにしたが、子供の意向は集約しにくくある程度の選択肢を与えてから決めるようにすればよいと思われた。子供自体の参加意欲が低く難しい。今後は子供主体で行う行事を年間一つくらいは入れていくように考えたい。

6 . 行事における決算書

	決算額	予算額	差異
野球等観戦（夢シート）	15,477	18,900	3,423
バーベキュー	63,291	64,000	709
映画	82,052	94,000	11,948
小キャンプ	174,565	200,000	25,435
海水浴	70,500	63,000	7,500
学園旅行	187,747	375,000	187,253
お盆行事	51,044	75,000	23,956
テーマパーク（中高生）	179,676	234,000	54,324
テーマパーク（小学生）	111,760	171,000	59,240
スキー	438,494	459,000	20,506
雪遊び	196,524	200,000	3,476
サッカー大会	0	10,000	10,000
交流戦招待	17,745	0	17,745
子供会行事	13,860	0	13,860
花火大会	16,458	0	16,458
食事会	245,509	288,000	42,491
合計	1,864,702	2,251,900	387,198